

# 「コロナ禍での生産者の状況と利用高」

～私たちの利用するチカラが生産者と私たち自身の暮らしを守ります！～

2020,7月 生活クラブ生協大阪 理事会

○※生活クラブ関西6生協の供給高は、前年対比で4月117%、5月は135%という結果となりました。

緊急事態宣言を受けて、学校は休校に、仕事はテレワークになり家族が家にいる時間が増えた家庭が多くなりました。また「人との接触を避ける」ことを求められたこともあり、外食やスーパーへの買い出しも躊躇する場面が増えたことにより、「宅配」としての生協の価値が脚光を浴びました。大阪では4～5月で692人の新しい仲間が増えました。※生活クラブ関西6生協・・・大阪、京都、奈良、滋賀、エスコープ大阪、都市生活

○生活クラブへ供給するために生産者は懸命の努力で対応してくれました。

急激な組合員数と注文量の増加に応えるために、生産者は懸命の努力で対応してくれました。学校給食やレストランに出荷できなくなり、経営的な危機に陥りそうになった生産者もいましたが、生活クラブからの注文増により経営的な支援となった側面もあります。

○「1週間前に注文したり、年間登録する」ということで実現していることは何でしょうか？

私たちが「作り方の確かなものを手に入れることができる、だから約束した量を必ず引き取る」ことで生産者は「計画的な原材料の確保や不要な農薬を使わない生産」ができるのです。

○必要な量については「これからも計画的な利用の継続」をしていきましょう

防災面でも心強い味方になります。

困った時だけでなく、継続して利用してこそ、  
私たちと生産者の生活を守ることができます。

私たちの利用が主な消費材の生産者にどのような影響を及ぼしたのかをお知らせします。

生活クラブ関西6生協の12週から23週(4月から6月12日)までの利用増による影響、対応の内容			
品目	生産者名	利用増の状況	影響、対応の内容
パスタライズド牛乳他	新生酪農	牛乳は前年比103.9%の伸び。昨年度年間では95.4%だったので、そこからの伸びは8.5%。	牛乳の提携生産者「新生酪農」は、学校の休業により給食での需要がストップ。大変な打撃となっていました。関西6生協の共同購入の利用増で、期間中11,427本の牛乳を昨年より多く引き取ることができた。
純国産鶏種のたまご産直いきいき卵(ケージ飼い)他	会田養鶏黒富士農場	たまごは前年比108.3%で、数量(パック数)では12週間で28,547点の増加。	外食需要は4月～5月はほぼ消失。道の駅、サービスエリア他の販売先からのオーダーは激減。結果として、生活クラブの利用増は生産者を支えるカタチになった。
米全体	各提携先	米は前年比112.6%の伸びになっている。	一般小売では4月中下旬には販売量が増えたが5月は低迷。配達型生協では、米の利用は伸長している。何年にも渡りお米の消費は伸び悩み、生活クラブでも各生産者と約束した量がなかなか引き取れない状況が続いていたが、4月以降お米の利用が伸びたことで、今年は生産者と約束した量を十分に食べ切ることができそうな、消化(消費)状況となっている。
竜おうみ米	竜王町稲作経営者研究会	4月、カタログ企画は200%を超える伸長。	8月よりカタログ企画を中止。登録分の確保のため、生産者に追加出荷について打診したところ、同規格の原料はほぼなかったが、学校給食休止の影響で生じた余剰米について相談を受ける。通常取り扱いのない「コシヒカリ」等の特別取り組みを検討、カタログ企画できるように調整する。
久比岐コシヒカリ	ピュアライス久比岐野	4月・5月の利用は前年比132.2%。	計画数の引き取り遅れにより、2019年産米は年明け(3週)からのスタートとなっていたが、この間の利用伸長により、2020年産米は11月中旬にスタートできる見通しとなった。

米沢郷米	ファーマーズ・クラブ 赤とんぼ	「米沢郷コシヒカリ(栽培期間中農薬不使用)」の登録利用が伸長。	5月、「米沢郷コシヒカリ(栽培期間中農薬不使用)」の登録新規受付を中止。
食肉全体	各提携先	「鶏肉」、「豚肉」、「牛肉」、「加工肉」それぞれに利用が伸長しており、食肉全体としては前年比127.8%の伸びになっている。	1月からのと畜制限で発生していた、農場での豚の余剰問題が一気に解消した。平常時は石井養豚センターが育てている豚の約半分ほどを生活クラブで引き取っているが、4月からは注文が増えたため生活クラブ向けの出荷割合が相当に増加。
鶏肉	㈱丸本・オンダン農協	鶏肉は137.5%の伸び。	オンダン農協と秋川牧園に、通常より多くの原料発注。㈱丸本大阪加工センター、製品製造の特別体制により製造確保。
豚肉	ウイナークラブ	期間内127.7%。	ウイナークラブでは特別製造体制で対応。
豚肉	生活クラブ関西・ミート	期間内131.6%。	豚肉キャンペーン(20週)では過去最高の受注実績で、生活クラブ関西・ミートでは特別製造体制で対応。
牛肉	生活クラブ関西・ミート	期間内116.8%。	和牛は一般相場が大きく低迷(外食需要の消失、百貨店の休業)。生協の発注が増えたことは、肥育農家の経営にとってプラスとなる。
野菜(カタログ企画)	各提携先	野菜は前年比118.6%で、点数では174,153点伸びている。一部品目では注文の増加に対応できず欠品となった。	注文急増に対して可能な限り出荷を依頼。例年に比べて豊作傾向のため、多くの品目で対応が可能であった。しかし一部では予定より早く終了して欠品が発生したり、急遽企画を中止する品目が発生した。
やさいBOX(4生協)	各提携先	18週号企画の登録案内で、1,000セット増加した。	初めて(もしくは久しぶりに)登録申し込みした組合員が多数。4週間経過し、ほぼ継続。
登録(玉ねぎ・じゃがいも・にんじん)		OCR受注が急増後、徐々に登録に移行中。	2月に比べるとOCR受注が玉ねぎ189%、にんじん120%、じゃがいも166%と急増(2月ににんじん・じゃがいものお試しキャンペーンあり)。その後減少しているが、登録に徐々に移行しており2月に比べると登録は玉ねぎ108%、にんじん112%、じゃがいも113%。共通化当初(2018年度)に立てた引き取り計画の達成が見えてきており、生産者にはプラスと受け止められている。
くだもの全般	各提携先	くだものは前年比125.3%で、点数では43,168点伸びている。一部品目では注文の増加に対応できず欠品となった。	
晩柑(カタログ企画)	各提携先		6生協統一の晩柑類も計画を超える注文の品目が多く、十分な引き取りができた(「不知火」、「パール柑」は一部欠品。「セミノール」は量目を調整)。
国産丸大豆しょうゆ濃口	伊賀越	15週～18週の実績は前年比133.3%	生産者はしょうゆキャンペーン(21週)の受注見直しを上方修正。受注対応に向け追加製造し在庫を積み増したが、キャンペーン週の実績はあまり伸びず在庫過多に。対応として追加の取り組み強化策を検討する。
関西お好みソース	コーミ	23週号表紙で特集し、取り組みスタート時を除き、これまでで最高の4,388点を受注。	取り組み計画数を上回ったため、追加の製造を手配し対応。一部は一週遅配となる。
コーヒー豆	珈琲工房まめ福	17週～23週の実績は前年比136.4%	5月は製造特別体制を取り対応。8月のまめ福キャンペーンはキャンペーン品目を「アイスブレンド」のみに限定する。

